



不妊治療が保険適用になりました

不妊症看護認定看護師

2019年度の人口動態統計と日本産科婦人科学会の統計によれば、約14.3人に1人が体外受精の治療を経て誕生しています。想像していたよりも多くのお子さんが不妊治療後に生まれていると思った方も多いのではないでしょうか。

不妊治療は身体的、精神的、社会的に患者さんの負担が大きい治療と言われます。不妊治療には、タイミング法や人工授精を含む一般不妊治療と、体外受精や顕微授精、凍結胚移植を含む生殖補助医療がありますが、高度生殖補助医療は保険適用外だったこともあり、経済的にも負担の大きい治療でした。



2022年4月から、不妊治療が保険適用になりました。保険診療になってもこれまでの特定不妊治療助成金と同様の要件があり、年齢制限や治療の回数制限は助成金の場合と同じです。保険適用により、治療費の自己負担額が3割となるため、患者さんの経済的負担は大きく軽減すると思われます。

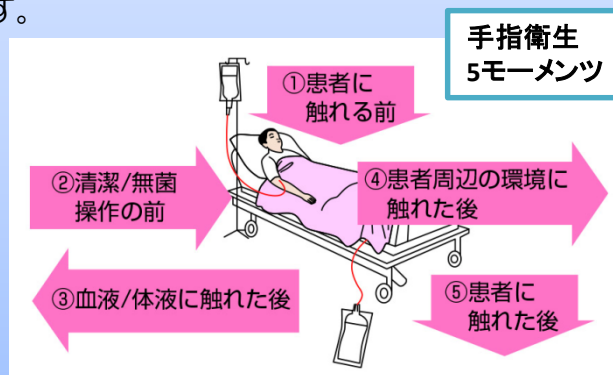
正しいタイミングで手指衛生をしましょう

感染管理認定看護師



病院長より2022年1月11日付けで、『病院全体としての感染対策強化について』通知文が発出されました。その中に『全医療従事者の手指消毒剤使用量の可視化』の項目があります。患者に接する全職員が手指衛生剤を携帯して、正しいタイミングで手指衛生ができる事を目指す取り組みです。

手指衛生は、医療現場において病原微生物の伝播を減少させる最も重要な手段です。しかし、適切なタイミングで行われなければ意味をなしません。正しいタイミングで、手指衛生を行い院内感染を予防できるように、ご協力をお願いします。



認定看護師の役割は実践・指導・相談です。認定トピックスは、最新の情報や皆様にお知らせしたいことを発信する院内だよりです。